

株式会社ローソンとローソンファームにおける JGAP認証取得への取組み

2017年9月26日
株式会社 ローソン
商品本部 農業推進部
下澤 洋

ローソンの生鮮原材料と商品製造について

自社農場であるローソンファームローソンで生産する
生鮮原料に「安全・安心」を担保するシステムが必要

ローソンの商品製造ベンダーはHACCP手法の工程管理を導入し
ローソン品質管理部と協働で食品安全のスキームを確保

川上となる野菜の生産においても生産工程管理
「GAP」の取組を行い、原料の安全性を担保しなければならない

「生産者も川上の食品メーカー」を目指し、
ローソンファームでの「JGAP」認証への取組を開始

1

第3者認証制度

2

全てのローソンファームが
基準を満たせる

3

日本の農業に最も適合した基準

JGAP認証取得の効果

JGAPに取り組み改善した農場環境



適切な農薬管理

農薬知識の向上
人体や環境への配慮

出荷情報と圃場記録が連携



トレーサビリティ

品質の向上
生産工程の正確な把握



整理整頓

作業性の向上
異物混入の回避

導入
メリット

取り組みを習慣化させることで各ファームの従業員の意識改革に繋がった

JGAPの導入により農場の経営環境にも効果が出る

エクセル、LINE、紙を用いて帳票管理

クラウドシステム導入で一括管理

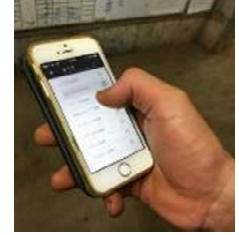
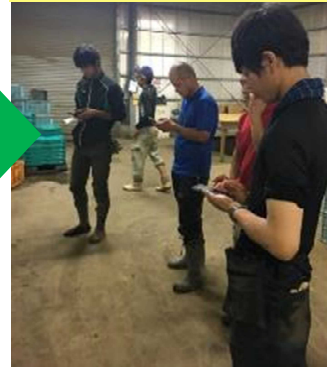


事務員が集約



アナログから
デジタルへ

作業員が直接入力
-約10分-



ロゴ画像：アグリノート <http://www.agri-note.jp/>

導入
メリット

- ・UI が使い易く、簡易に入力できるため漏れなく記録を取ることを習慣化
- ・入力データを用いて圃場ごとの損益計算、土壌、農薬管理が可能になる
- ・データが可視化され無駄のない経営環境を実現

ローソンの目指す農業事業構想

農産物の生産・流通工程を変えて行かなければならない

結果管理に基づく品質保証

これまでの
農業



全てはお客様へ安心して、
安全な青果物をお買い求め
いただくために

求められる
農業

生産工程管理に基づく品質保証

ローソンの目指す農業事業構想

ローソンfarm千葉社を事例にした生産から加工までの一気通貫スキーム



サプライチェーン(フードチェーン)を食品安全の概念でつなぐ！

- ① 自社農場での原料生産 (JGAPでの生産工程管理)
- ② 6次産業化施設で産地での一次加工処理 (品質・鮮度向上)
- ③ HACCPで工程管理された商品製造 (食品安全の担保)

小売業が農業まで手掛ける事で達成される
食品安全のモデルケースの構築を目指す。
(JGAPからASIAGAPへのステップアップも目指す)

